

～輝きの子育て～

「上善如水」

～ 上善は水の如し ～

22歳の時、私は社会に生まれました。その時、母親から手紙が来ました。

内容は、「水は方円の器に従う。されど、穴をも穿つ。」というものでした。私の強情で頑固で、喧嘩早く、世の中は自分中心で廻っているという性格を心配してのものだったと思います。しかし、その時は「フーン」という程度で、すっかり忘れていました。

思い出したのは、50代を過ぎてからです。勤務地が変わり、人間関係や職場環境が、すっかり変わり、どうやって、仕事をして行くか考えていた時でした。「水に学ぶ」ということに考えつきました。

今から思えば、その頃から、少しだけ人間が出来てきたのではと自負しています。(笑)

「上善如水」という言葉は「老子」の言葉です。お酒の好きな人は、新潟県の白龍酒造のお酒を頭に浮かべることと思います。すっきりとした「水」のような清らかな味です。

お酒の話は別として「上善は水の如し」とは「最高の善は水のようなものである」という「老子」の考えです。

水は万物を潤し、育み、争わず、低いところに流れていく。その性質が理想的な生き方に相通するものというものです。

水は細かく入り組んだところにも入っていきける。どんな広い場所でも満たすことが出来る、きわめて、融通の利く、優れた「柔軟性」を持っています。

又、柔らかく流れる水は硬くて強固なものより優れており、「涓滴岩を穿つ」と言います。水のしたたりは、絶えず落ちてくれば、硬い岩にも穴を開けます。どんなことでも、努力を続ければやり遂げることが出来るというものです。

「柔よく剛を制す」、「気に入らぬ風もあろうに柳かな」と言い表すことも出来ます。

水は常に低いところに流れていきます。高いところに登ろうとはしません。

上に立とうとせず、あまり争わない人は、誰にでも好かれます。「へり下って威張らない」「実ほど頭を垂れる稲穂かな」という諺があります。

ノーベル賞受賞者の山中教授は、失敗した時には「身から出たさびです」、成功した時には「おかげさまで」という態度です。

以上三つの「水」の性質、働きを、人生の指針にすると、何事もうまくいくと考えています。

米国大統領をはじめとして、世界の指導者も、これを実践すれば、世界は平和になると思いますが・・・。

片野 英司

参考

斎藤 孝 「図解シリーズ 老荘思想」

この図解シリーズは「論語」「孫子の兵法」「歎異抄」「自省録」

「葉隠」「菜根譚」etc

人生の指針となる古典の入門書です